



くりはら たけのり通信 No5

OPEN UP THE FUTURE

ALWAYS WE ARE THE FORFRONT OF CHANGE



共に杉戸の未来を切り拓こう。
いつも、私たちは変化の先頭に。

ワクチン接種について



私は副反応が全く
ないので、効いている
のが不安です。

周囲の感染が多く
慌てて仕舞い込んだ
封書を探し予約
しました。SNSで
はワクチン副反応
の危険性を盛んに
発信していますが、
あくまでも強

制ではなく努力義務です。努力義務とは「接種を受けるように努めなければならない」という予防接種法の規定のことです。私は一度も副反応が今までありませんでしたので11月10日に4回目のワクチンを接種してきました。絶好調です。

お知らせ



杉戸高野台東口では、今までBig-A杉戸高野台店で一般家庭用ゴミ袋を扱って頂きましたが、8月11日に営業を終了してしまいました。近隣の方がお困りということで、セキ薬局杉戸高野台店(チューリップ薬局、東口)様が、12月より取り扱って頂けることになりました。ありがとうございます。取扱店は→で検索

杉戸町指定ごみ収集袋販売取扱店

CLICK!

セキ薬局杉戸高野台店



さて今回は一人親世帯など「子育て中で食料支援が必要な家庭」を中心としたフードパントリーを実施している「すぎと居場所づくり応援隊」の活動をご紹介します。11月30日付の埼玉新聞県央版に掲載されています。



居場所づくり応援隊
フードパントリーとは
何ですか？

今、日本では子供の7人に1人が『相対的貧困状態』にあると言われています。これを杉戸町に置き換えると約500人もの子供たちが貧困状態にあるということです。相対的貧困とは①親が病気のために家事をしなくてはいけない子ども②食費を切り詰めるために、親が十分に食事をとっていないという子ども③金銭的な理由で大学進学を断念する子ども④家計を支えるため、毎日のようにアルバイトしている子どもなどのことです。そこで「**すぎと居場所づくり応援隊**」を結成しました！現在会では、2か月に1度(奇数月)に町内の希望するひとり親家庭に**食料品等の無料配布**する子育て応援フードパントリーを実施しています。

(すぎと居場所づくり応援隊パンフレットより)

備蓄しているお米や野菜などを仕分けし袋詰め





この事業の目的としては、食品ロス解消と必要とする人への食品無料配布。そして配布場所を「居場所」とし人の繋がりを促進すること。そして持続可能な事業として杉戸町における食品の地産地消促進活動を推進することです。



杉戸町役場職員によるフードドライブはこれまで3回実施しています。また「アグリパーク」に回収BOXを配布日に設置し、農産物を販売している組合員の皆さんに呼びかけ、配布日当日の寄付をして頂いています。



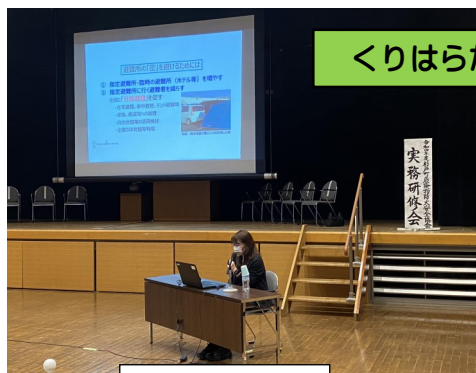
代表 寺田 竹雄氏

12月25日に
「おいしいチキン」
を贈りましょう



長引き新型コロナの影響により子供たちの貧困は深刻さを増している状況です。そこで竹田代表は、今年の12月25日に、生活が困窮している一人親家庭の子供たちに「おいしいチキンを贈りたい」と計画しています。私も手伝いますので是非事業実施にあたり寄付をして頂ける方がいたらご連絡ください。寄付はお菓子等でも結構です。ご連絡は、杉戸笑福の会事務局まで、ご連絡ください。

ブログ毎日更新 QRコードはこちらです



10/26 防災士講習



10/27 元太田大臣講演会

くりはらたけのり 近況報告



11/1 社協見学



11/4 日本工業大学生、無印社員さんと古利根川流灯まつりについて勉強会を開催



二酸化炭素を出さないコンクリートで地方都市の市庁舎が既に建築されています

11/21 カーボンニュートラル勉強会



11/24 杉戸ロータリークラブとして町にバリエード寄贈

プロフィール 栗原偉憲（くりはらたけのり）1964年11月17日（生年月日）

（株）栗原建設工業 代表取締役（職業）古利根川流灯まつり実行委員長（2008年～）（経歴）

発行：杉戸笑福の会 事務局 TEL 080-3121-0164

2022.11.30